

## 第1回 愛西市子育て世代包括支援センター運営協議会会議録（概要）

会 議 名	令和4年度 第1回 愛西市子育て世代包括支援センター運営協議会
開 催 日 時	令和4年8月4日（木）午後2時00分から午後3時45分まで
開 催 場 所	愛西市役所 北館 3階 災害対策本部兼会議室
出 席 者	別紙のとおり
欠 席 者	別紙のとおり
議 事 等	<p>●議事</p> <p>(1) 令和3年度事業実績及び令和4年度事業計画について【資料1～7】</p> <p>(2) 意見交換 「親支援を考える～子どもの姿を親にどう伝えるか～」【資料8】</p>
公開/非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	—
会 議 資 料	<p>資料 1 令和3年度事業実績及び令和4年度事業計画</p> <p>資料 2 令和3年度子育て世代包括支援センター事業等実績報告 (1) 子育て世代包括支援センターについて</p> <p>資料 3 (2) ワンストップ相談窓口における相談実績について</p> <p>資料 4 (3) 子育てネットワークづくりについて</p> <p>資料 5 (4) 安心して妊娠、出産、子育てできる地域づくりについて</p> <p>資料 6 (5) 啓発活動</p> <p>資料 7 市区町村における児童等に対する必要な支援を行う体制の関係整理</p> <p>資料 8 意見交換「親支援を考える ～子どもの姿を親にどう伝えるか～」</p>
審 議 経 過	別紙のとおり

愛西市子育て世代包括支援センター運営協議会委員

役 職	氏 名	備 考
会 長	谷本 紅美	
副 会 長	井上 薫	
委 員	長谷川 修三	
〃	石田 洋子	
〃	水谷 紀子	欠席
〃	諏訪 淑子	欠席
〃	加藤 紀佳子	
〃	嶋藤 真由美	
〃	宇野 ちひろ	
〃	加藤 美智子	
〃	鈴木 美保子	欠席
〃	黒田 意津美	
〃	中澤 アヤ子	欠席
〃	中野 美鈴	

事務局

課および役職			氏 名
健康子ども部	部 長		清水 栄利子
保健福祉部	参 事		松本 繁
健康子ども部	子育て支援課	課 長	長谷川 努
		主 査	神田 真愛
教 育 部	学校教育課	主 幹	吉田 光男 欠席
健康子ども部	健康推進課	課 長	服部 芳樹
		主 査	藤松 志乃
子育て世代包括支援センター母子コーディネーター			
健康子ども部	子育て支援課	保育士	岩間 竹子
		保健師	丹羽 恵子
		保健師	松原 政江
	健康推進課	保健師	伊神 敬子
		保健師	佐藤 衣理
子ども家庭支援員			
健康子ども部	子育て支援課	保健師	検校 規世

## 審 議 経 過

発言者	内容（概要）
会長	<p>1. 会長あいさつ</p> <p>コロナが急激に拡大しており、子ども達の生活に大きな影響を及ぼしております。また、子どもたちにはRS ウイルスや手足口病などいろいろな感染症が一気に拡大しており、子どもたちにも大きな影を落としているのではないかと心配しております。ますますこれから子育て支援が重要になるかと思えます。</p>
会長	<p>2. 協議事項</p> <p>協議事項（1）「令和3年度事業実績及び令和4年度事業計画について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（1）「令和3年度事業実績及び令和4年度事業計画について」</p> <p>事務局より、資料番号1から7に基づき説明</p>
会長	<p>事務局の説明について、ご質問、ご意見ありますか。</p>
会長	<p>お仕事されている方が多い中、パパママ教室の曜日や時間の設定は工夫していますか。</p>
事務局	<p>パパママ教室は、土曜日の午前中に開催しています。児童館のベビーマッサージと同時開催しており、土曜日にお休みの方も参加しやすい工夫をしています。</p>
会長	<p>母子父子自立支援員の配置は市の事業ですか。</p>
事務局	<p>市の事業として、子育て支援課に1名、会計年度任用職員として配置し、離婚前相談、就業、生活の立て直し等の相談対応を行っています。</p>
会長	<p>協議事項（2）意見交換「親支援を考える～子どもの姿を親にどう伝えるか～」について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（2）意見交換「親支援を考える～子どもの姿を親にどう伝えるか～」について、事務局より資料番号8に基づき説明。</p>
会長	<p>ご意見をいただきたいと思えます。</p>
委員	<p>ファミリーサポートセンターでは、母親の精神疾患、育児疲れ、育児不安による利用が多いです。子どもとどのように接してよいのかわからない、泣きに対する対処がわからないといった相談もあり、母と一緒に行動することで母の気持ちを和らげることや、子どもを預かることで、母の自由時間を作っています。</p> <p>送迎サービスでは、塾の送迎中に、子どもから塾に行きたくないなどの相談もあり、母親に言えないことを相談できる大切な場所にもなっています。</p> <p>母を労い、話をゆっくり聞く等の対応をしていますが、父母ともに忙しさのせいか子どもと向き合えず、愛情不足のように感じることもありま</p>

<p>会長 委員 会長 事務局</p> <p>事務局</p>	<p>す。</p> <p>ネグレクトが背景にある家庭については、保健センターと連携し支援することで、問題解決につながったケースもあります。</p> <p>そのほかにも、児童クラブの利用に送迎や弁当作りへの負担感を感じている家庭には特例のサポートを考えたり、利用料金の支払いが難しい家庭には、寄付品等を持参しながら家庭状況を把握してサポートしています。</p> <p>保護者とは、顔を合わせて伝える機会もあるため、子どものほほえましいエピソードや、良いところを交えながら子どもの気持ちを汲み取ってもらえるような伝え方を心がけ、研修も実施しています。</p> <p>関係機関との情報共有については、事例報告書により行政と連携して、必要時にケース会議を開催しています。また、保護者の了解を得て、保育所や学校とも情報共有して連携しています。</p> <p>今後の課題として、忙しい保護者と顔を合わせる時間を作る努力をしていきたいと思います。また、研修会を活用して働きながらも保護者が学べる機会を提供していきたいと考えています。また、経済的困窮、DV、離婚、こどもの障害等、厳しい環境におかれている保護者の支援は重要であり、利用料金がかかることで本当に困っている家庭に支援が結びついていない現状があります。</p> <p>経済的に厳しい保護者への支援はどのようにするのですか。</p> <p>団体での基金で対応できないかを検討しています。</p> <p>行政ではどのように対応されているのでしょうか。</p> <p>子育て支援課では、支援の必要なご家庭の状況により、母子コーディネーター、家庭相談員、母子父子自立支援員による相談、訪問対応により、母や家族の困りごとが少しでも解決できるように対応しています。</p> <p>欠席している委員からの意見もいただいています。</p> <p>電話、メールといった便利なツールが増えるにつれ、顔を見て話せる機会が減っています。便利なツールでのコミュニケーションは母の表情等の心理変化を読み取ることが難しく、改めて顔の見える関係の大切さを実感しています。</p> <p>また、親は仕事が忙しく、親の話をゆっくり聞く余裕、伝える余裕もないのが現状です。そのなかでも、1人目は夫婦のみで自身の子どものみを見ているケースが多い一方、2人目以降は祖父母のサポートが入ることで新しい気づきにより支援に繋がるケースもあります。第三者の目、信頼関係のある人の話は心に響くため、信頼関係を築く関係づくりが大切です。</p> <p>子育て支援センターでは、少し慣れてきたタイミングで、困ったことを話してよい場所だというメッセージを伝えると、少しずつ話してくれるようになりました。</p>
--	--

	<p>また、関係機関と連携した時に、自分たちが得ている情報が関係機関の得ている情報と異なっていることもありました。関係機関と連携することで、違った側面からのアプローチ、アセスメントをすることにつながりました。</p>
委員	<p>児童クラブとの連携を大切にしています。保護者からの学校に対する率直な意見を児童クラブを介してもらえることはありがたく思います。また、放課後等児童デイ、社会福祉協議会、市の相談員との連携により、保護者の困り感を共有し、親支援に繋げています。</p>
委員	<p>保護者が子どもと同じ感情で動いてしまうこともあり、保護者へこちら側の意見を伝えることが難しい場合は、スクールカウンセラーを介して伝えることもあります。</p>
委員	<p>今後は関係機関と連携支援していきたいと思っています。</p> <p>生活の様子を保護者に聞きながら、子どもの強みを保護者と共有し、「一緒に考えていきましょう」というスタンスで関わるのが大切であると思います。</p>
委員	<p>まずは保護者のできるところを強調して褒め、提案は1つにとどめて関わるようにしています。また、子どもとの向き合い方がわからない保護者へは、子どもが保護者を求めていることを伝えます。子どもと一緒に空間にいることの大切さ等を伝えるための親支援を、あいさいつ子相談室、学校、医療機関等と連携して支援しています。中学生になると、家庭と教室での姿は違うため、保護者の困り感と、子どもの困り感のズレが生じていることもあるため、そのズレを補正しながら、親子の間で調整することが大切だと感じています。</p>
委員	<p>幼児期から青年期の発達相談、就学、進路、就労の相談を受けている立場からの率直な意見として、子どもの姿がどこにあるのかが見えてきません。子どもには、障がい、ネグレクト、虐待、外国籍や二次的障がい等を抱えている等の背景がある子もいます。子どもが親や関係者をどのように見ているかの視点が必要です。</p> <p>子どもが小さい頃は家族支援が必要不可欠となります。しかし、子どもが成長して学童期に入ってから、子どもの権利が保証される必要があります。子どもの権利条約では基本原則の1つに「子どもの意見の尊重」があり、意見表明の権利についても定められており、子どもが自分の権利を擁護するセルフアドボカシー(自己権利擁護)も見直されています。</p> <p>一方で、国立成育医療研究センターが行った全国的アンケートの実施結果には、コロナ禍で子どもと保護者が過ごす時間は圧倒的に増えたが、「子どもが親へ話しかけやすくなりましたか」の質問に対し、小学校6年生の80%が「話しかけづらくなった」と回答しています。子どもは、大人の雰囲気を感じた結果、多くは自己表現をしない傾向があります。この</p>

	<p>ような結果からも、子どもを中心とした見方の相談活動について今後考えてほしいです。</p> <p>また、平成3年、文科省が教育的なニーズをつかむ特別支援教育のなかに移行支援期という言葉があります。移行支援とは、保育園、療育、小学校、中学校、高校、大学のように移行していく際に、発達年齢に応じた支援の方法を子どもの意見や心を支援者が吸い上げ、子ども主体の相談活動をすすめるということです。子どもが小さい頃は、周囲の大人が責任をもって行うが、10歳頃からは母子の関係が異なってくると思われま。基本型における相談実績については、件数は多いが、相談内容は大人の視点であり、子どもの視点がありません。また相談後の追跡が必要だと思います。様々な仕組みは整っているので有効に活用していくことが大切だと思います。</p> <p>子どもの意見や表明を、相談に取り入れることが必要です。その一つの例としてセルフアドボカシー(自己権利擁護)、子どもを中心に捉えた考え方を関係機関が共有すべきです。</p> <p>成長の記録は母親の意思表示の一つなので、今後はICTを活用して行うといいと思います。</p> <p>発達支援センターでは子どもの相談を考えていますか。</p> <p>小学校以上は、学校教育課やあいさいっ子相談室と連携して相談を受ける計画を立てています。</p> <p>未就園児の親子療育には、保健師からの紹介で通われることがほとんどです。その段階で子どもの発達について何かしらの心配があるという思いを抱きつつの通所になるため、我が子と向き合おうという意識は高いと思います。</p> <p>子どもの姿を共有するためには、療育の中で子どもの姿を親とスタッフが同じ場面を見て、子の発達の特徴や認知や理解力、気持ちを読み取っていくことについて理解できるよう、子どもとの向き合い方を親と一緒に確認しながら進めています。</p> <p>親とのグループのミーティングでは、その日の振り返りをしながら子どもとの関わり方、子育ての悩みを話し合い、親同士の情報交換の場を提供しています。ただ、我が子の発達の凸凹の部分をスムーズに受け入れることが難しい場合は、親が孤立しないように保健師の力を借りたり、療育卒業後の親の会を紹介したり、心理士が相談に応じるなど対応しています。</p> <p>子ども中心、子どもが何を求めているかという支援の方法を課題として持ち帰りたいと思います。</p> <p>保健所には、親からの相談のほうが多くあります。</p> <p>不登校、引きこもりがきっかけで相談があることが多いです。不登校、</p>
<p>会長 委員 委員</p>	
<p>委員</p>	

<p>会長</p>	<p>引きこもりについては、短期間で解決する問題ではないので、信頼関係を作りながらの面接を中心に保護者の方の話を聞いて事実や気持ちを整理し、子どもの姿をどう思っているか、保護者の視点にはなりますが、客観的に整理し考えていけるような場を作りながら相談支援をしています。</p> <p>母が、気持ちを全部話してもらい安心して相談できる場となっているケースもあります。</p> <p>反対に学校からの相談もあり、その場合は、スクールカウンセラーから母の相談の場の一つとして、母と学校の間を調整する支援を行ったケースもあります。その場合は、了解が得られれば双方の情報を伝えて学校の支援の参考にしてもらっています。</p> <p>関係機関の連携でいうと、精神障害を持った妊産婦のケースについては必要に応じて、市町村の保健センターや、子育て支援センターにつなげたり、了解を得たうえで情報提供をしています。</p> <p>小児科医として、子どもの立場でものを見て子どもを守ろうと固く思うが、つい診療の中で母の目線で子どもを見てしまいます。やはり子どもの目線で見ていかなければなりません。子どもがどう感じているか、思っているか、どう物を見ているか、まずその視点で始めなければならないと改めて考えさせられました。</p> <p>最近の保護者の伝え方についてですが、いろいろなメディアに振り回され、自分の意志が揺らいだりして、どうしたいかの意思がないと感じます。周りに言われれば動けるといふ保護者も多いように思います。</p> <p>親がどういう子育てをしたいか自覚してもらうこと、子どもの気持ちを汲み取ること、それぞれ大事なことです。どういう立ち位置で支援していくか考えていかなければならないし、親と子、関係機関が信頼関係を築き、協力して支援していくことが大切だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>登校の見守りやボランティアでの読み聞かせで保護者に会ったり、話すことができます。保護者の愚痴を聞いたり、相談を受けている分にはいいですが、来ない方が問題で闇が深いのではないかと思います。窓口に来られない人にいかに支援していくかが地域の役割だと考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>複雑に多重的に問題が起こっていると感じました。経済的な問題、時間的問題、夫婦関係、家族から支援が得られないなど、子どもが24時間安心して過ごせるような支援が必要だと考えます。しかし、人手やそれを補う仕組みが足りない状況があり親や子が苦しんでいるのではないかと考えます。多重的な支援は難しいと感じています。</p> <p>子どもの視点は大事で、子どもの意見が反映されているかの確認は必要です。すべての子どもが意見を言えるように、子と子、子と職員の間で話すことができる環境づくりが大切です。そこから、本当に困っている人に接触できるようにしていかなければなりません。</p>

委員長	<p>親と子の言葉から、できていること、願いを聞きとり、関係作りをすることが大切だと思います。身近なことから言えるようになることが大切です。子どもたちや親の思いを支援に繋げるよう、ここにいるメンバーでその環境をつくってあげれば良いと思いました。</p> <p>ありがとうございました。これらの意見を事務局の方で参考に今後の事業に活かしていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>これにて協議を終わらせていただきます。</p> <p>3 その他について</p> <p>第2回子育て世代包括支援センター運営協議会の開催は、令和5年2月2日（木）を予定。</p> <p>閉会</p>